

# WHO ファクトシート

## マールブルグ出血熱

Marburg haemorrhagic fever

ファクトシート No. 000

2012年11月

### 重要な事実

- ・マールブルグウィルスは、ヒトの重症ウィルス性出血熱を起こす。
- ・マールブルグ出血熱流行時の致死率は24%～88%であった。
- ・オオコウモリ科のルーセットコウモリが、マールブルグウィルスの自然宿主と考えられている。マールブルグウィルスは、オオコウモリからヒトに感染し、ヒト—ヒト感染によりヒトの間で拡大する。
- ・特異的な治療法やワクチンはない。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分についての日本語版の翻訳権をWHO事務局長より付与され、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）の協力のもと作成したものです。日本語版に対する責任は全て日本WHO協会が負います。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Marburg haemorrhagic fever      ファクトシート原文は [こちら](#)